



スペイン語へのいざない

(2005年3月東京大学新聞に掲載されたものです)

上田博人 (スペイン語部会/スペイン・ラテンアメリカ言語学)

ラテンアメリカではラテン語が話されていると思っている人がいます。もちろん皆さんはラテンアメリカ (とヨーロッパ・イベリア半島) で使用される主な言語がスペイン語とポルトガル語であることをご存じでしょうが、ここで最新のデータをいくつか紹介したいと思います。

スペイン語の成立については10世紀ごろの手書きの資料が保存されています。さらに遡れば興味深いことにイベリア半島の一部で使われていたラテン語の文書の中にスペイン語らしさが見つかります。このようにはじめはラテン語の子孫としてヨーロッパのごく限られた地域で話されていました。

ところが500年前コロンブスが大西洋を越えて以来、スペイン語は南北アメリカ大陸、そして太平洋地域にまで普及しました。現在は世界20カ国で4億人を超える人々が使っています。最近ではアメリカ合衆国内のスペイン語の使用がよく話題になりますが、国民の10%が家庭でスペイン語を話しています。

スペイン語の発音や文法はとても整然としていて面倒な規則があまりありません。さらにラテン語直系の言語ですから、英語が導入した多くのラテン語起源の単語の知識が役立ちます。言語習得の相対的難易度を調査した社会言語学者によれば日本人にとってスペイン語は単独トップのスワヒリ語に続いて学びやすい第二のグループに入るそうです。これは私の実感と一致します。

スペイン語圏の社会や文化は私たち日本と対極と言ってもよいほど大きく異なるので興味が尽きません。ある大学の卒業生へのアンケート調査によるとスペイン語が卒業後役立っていると答えた人が60%を超えたそうです。実際にスペイン語を勉強して後悔したという声を聞いたことがありません。

最後に編集部からのご依頼にお答えします。El que no conoce una lengua extranjera, no conoce verdaderamente su propia lengua. エル ケ ノ コノセ ウナ レングア エクストランヘラ, ノ コノセ ベルダデラメンテ ス プロピア レングア。「外国語を知らぬ者は自分の母語も知らない。」(Goethe)